アザワラウアクイ情報まとめ

システム

タイムテーブル制。一日を、**朝・昼・夜・夜中**の四つに区分。
一日目朝は全員強制イベントで消費。最終は七日目夜中。
最終日までもつれ込んだ場合戦闘の難易度が高くなる恐れがある。
基本的に**一区分で三回行動可能**だが、**GMからの指示により可変**。
エリア間移動でも一行動を消費。**同じエリア内の場合は移動による行動消費無し**。
オダワラ城に戻る場合のみ、行動消費無しで戻れる。
睡眠は一つの区分を占有。食事は他の行動と併用可能。
四区分連続で睡眠をとらずにいると、次の区分より全ての行動に-1ペナがつき累積する。（不眠があれば免除）
睡眠をとるとペナを4減らせる。
イベントにより睡眠中に起こされることが有り得る。ペナ0の状態で睡眠をとっている場合は連続覚醒カウントはリセットされるが、ペナ有の状態で起こされた場合はペナは解除されない。睡眠で金銭消費は発生しない。
四区分連続で食事をとらずにいると、次の区分より全ての行動に-1ペナがつき累積する。（食事不要なら免除）
食事をとるとペナを2減らせる。水分補給は随時とれているとする。食事で金銭消費は発生しない。
PC間の情報共有は合流した時点で完全に可能となる。（共有ロールはしてもOK）
移動可能エリアについては次項にまとめる。
NPCマサヨシは夜中は必ずNPC朔君の警護（PCが警護したとしても夜中は必ず警護）をし、他の時間帯で睡眠しているものとする。それ以外はPCから要請があれば調査に動く。要請がなければランダムに動き情報を探す。**マサヨシを表に出す行動は非推奨。なるべくPCが動くこと。**

NPC朔君（依頼者）は必ずPCの味方となることがGMにより保証されている。成り代わりや催眠・洗脳、また依頼自体がPCを陥れる罠にはならないことも保証されている。行動資金については最初にアヅマの通貨に両替を推奨。**出発後のアイテム購入はフレーバー品と食糧のみ**となる。

裏通りで春を売ると、夜と夜中の二区分が過ぎる。**フッカーレベルが6以上なら夜中に睡眠をとった扱いにすることが可能**。無理矢理春を買われることはない。

レベルキャップPCでもアビリティの使用は許可されている。

初期両替額（通貨単位は文）	
ウルウ	3万セレン分宣言済（小銭も用意）
ギーゼルベルト	10万セレン分宣言済（5万セレンはルベルが所持）銅銭も100ほど用意
クロウ	3万セレン分宣言済
ヘラ	宣言無し
ミカゲ	3万セレン分宣言済

変装	
ウルウ	尻尾の効果を使わずに妖術で化けた。達成値は19。
ギーゼルベルト	オダワラ城で変装し直し。大柄のアヅマ人になる。達成値18。
クロウ	変装スキルないためフード付きマントで種族を隠す。
ヘラ	アヅマ尼僧に変装。達成値19。ミカゲの補助（達成値24）有。
ミカゲ	種族（ハーフシャドウ）隠しの変装済。達成値は22。

補給状況		
キャラ名	睡眠	食事
ウルウ	二日目・夜中	二日目・夜
ギーゼルベルト	二日目・夜中	二日目・夜
クロウ	二日目・夜中	二日目・夜
ヘラ	二日目・夜中	二日目・夜
ミカゲ	二日目・夜中	二日目・夜

現在移動可能エリア	
オダワラ城	初期位置。おそらくリアル小田原城同様難攻不落の要害。 城内に図書室有。
城内（牢屋）	調査を実施済。小之進が死んだ場所。
大通り	商業地区。賑やか。茶屋では旅人が噂話をしている。
裏通り（春通り）	歓楽街。マサヨシは行動に+補正 **顔役クオンと面通し済はウルウとミカゲとギーゼルベルト** **「ヨシワラの月は」欠けない満月**　が合言葉
裏通り（連れ込み宿）	姿を消した者の痕跡が残っていた。呪符を発見。
長屋通り	未見。庶民が住むエリアと思われる。
町外れ	北東に見世物巡業予定地。森から100mほど。
町外れ（無縁仏の御堂）	町の南西（裏鬼門）にある。
町外れ（森）	フレッシュラーヴァが倒された場所。

各地区に行くだけなら道に迷うことはない。明確な移動目標がある場合、初回は判定が必要な場合がある。**町でやりたいことがある場合、NPC朔君への相談を推奨**。

事前ブリーフィング

マサヨシが仲介となる依頼の表向きの内容は、藩主が不在の間に藩主の失脚を狙う者から藩主の御内儀を護衛すること。藩主の子息が元服する前に政権を奪う画策が以前からあった。政治には興味のない藩主の弟を擁立しようという考えらしい。しかし、まったく義がなくお家騒動に発展する恐れはない。

雇った側は分かっているが、中堅どころの家臣の名前が挙がっただけでその**背後の大物にはまだ届いていない**。

マサヨシの伝手からの情報では、**アヅマ国外の外法使いが雇われて動いている**が、外法使いは雇う側に接触したのは一度きりでその後は**潜伏状態となっている**。依頼者がいなくなったところで外法使いが活動をやめるとは思えない。

一日目・朝・オダワラ城（全PC強制イベント）

アヅマのポータルから駕籠でオダワラ城まで移動。

ヘラは駕籠酔い。ミカゲは籠の中から噂話（**ハコネの山に化生が出た**・**神隠しがあった**・**見世物巡業が楽しかった**）を聞き取る。

城では女中たち（それなりに訓練されている）に出迎えを受けるが、**女中頭が一人洗練された身のこなし**をしている。マサヨシは女中頭を見て微かに動揺。

謁見用の部屋に通されると、華美過ぎない着物を着た女性が出迎えるが、ウルウ、クロウ、ギーゼルベルトは女性に違和感を感じる。ヘラからの質問を受けたところで女性が困惑したところでミカゲが女中頭に話を振り、女中頭が正体を現す。**女中頭こそが依頼人の朔君だった**。

詳細について問うと、ブリーフィングでマサヨシが語ったとおり、野心を抱いた者が危険人物を雇ったとのこと。

雇った側の末端を捕えて牢に閉じ込めておいたが、見張りが目を離した隙に牢内で悲鳴をあげながら溶けてしまったとのこと。骨までぐずぐずになっていて異臭もひどく保存はできなかった。

【移動先に城内（牢屋）が追加された】

城内に**最近入った家臣や女中はいないとのこと。また、最近様変わりした者もいない**。

藩内の不満分子の目的は、藩主と朔君の生命のようだ。最近はないが以前は狙われたことを、朔君は仄めかした。

一日目・朝の時点では、外法使いが仕掛けてきたのは、牢の中の男、小之進を溶かしたことのみ。小之進の周囲の友人や家族なども軒並み姿を消しているとのこと。

一日目・昼・オダワラ城（牢屋）

ギーゼルベルトとヘラが調査を行う。
牢内には腐臭が燻り、地面が溶け、若干の肉片が残っている。
身体が溶けただけにしては体積が減りすぎている感触。溶けた地面には魔力の残滓はなかった。
身体を溶かしながら体液を吸う生き物ならいると感じる。
水棲の肉食生物『タガメ』が怪しいと感じるヘラ。
ギーゼルベルトも虫の糞や残骸を意識して捜してみると魔力の残滓を見つける。
牢の壁や天井に足跡じみた小さな傷がついているのを発見する二人。
ヘラは城の図書室で書物を調べていると、**合成獣が使われた可能性**に思い至る。
牢に引き返してきたヘラは降霊術を試してみる。魂は既になかったが**染みついた恐怖と残滓**だけが残っている。
恐怖の残滓に触れてみると、それは**溶かされながら魂まで食われる**感覚だった。魂の欠片を抱きしめると、それはヘラに溶け込んで、**ヘラはたとえ見えなくとも魂を溶かして食ったその存在がいれば感知できるようになった**。
これはジブリルの仕業だと思い、（ミカゲに）ジブリルを殺させるわけにはいかないと思うヘラだったが、これ以上死霊術を悪用させないと怒りに震える。ギーゼルベルトはそんなヘラに動かされなるべくジブリルを捕縛するようにするとヘラに言うのだった。

【タガメについてwikiより引用：参考】
獲物を捕食する方法は「鎌状の前脚で捕獲した直後に針状の口吻を突き刺し、吐き出した消化液を送り込んで獲物の体を麻痺させるとともに肉を消化液で溶かして液状にしてから口吻で吸い込む」という「体外消化」の方法である。この消化液は肉質を溶かすだけでなく骨までボロボロにしてしまうほど強力なもので、大きなトノサマガエルでもタガメに捕まってから数分で動かなくなり、タガメは時々口吻を刺す場所を換えつつ1，2時間程度でカエル・魚を食べつくす。「獲物の血を吸う」という表現がなされる場合があるが決して血液のみを吸っているわけではなく、タガメに食べられた生物の死骸は小さなものでは溶けかかった骨・皮膚しか残らず、大型の獲物も溶かされた肉質が流れ出しそうなほど柔らかくなる。

一日目・昼・裏（春）通り

顔役の店に入り、周囲の者たちに美貌を晒しながら店の裏へ向かうウルウとミカゲ。
顔役の店の中の間取りを頭の中に叩き込む。ウルウはさらに店の中の者たちの顔も記憶。
見たところでは**店内に幻術はかかっていなかった**。
マサヨシから**裏通りの若き顔役クオンを紹介される。クオンはマサヨシの縁で藩主と朔君から裏通りの顔役を任されている**。
下手人（ジブリル）の足取りについて尋ねると、**複数の連絡役がいることが分かり、女（ジブリルと思われる）と接触した者もいたが、既に消されている**。
現状で接触情報からの割り出しを行っている。ウルウとミカゲの美貌のお蔭でやる気を出しているらしい。
この町では、夜に芸を売り、夜中は店の門が閉まる。
最近急に羽振りが良くなった者や、急に春を買いに来るようになった**いかにも怪しい輩は既に軒並み消えている**。消え方は『神隠しとしか言いようがない』
裏通りで春を売る場合は夜のうちに売り、夜中に雪崩れこむ形になる。芸だけ売る者からは春は売らせない。遊女ムーブをすると、夜と夜中の二区分を消費する。フッカーレベルが6以上なら、夜中に睡眠をとることが可能。
黒服に合い言葉を（「ヨシワラの月は」欠けない満月）を言い、クオンが空いていれば再びクオンと面会可能であると確認。ただし、現状はマサヨシを仲介して顔合わせをしたウルウとミカゲのみ。
ウルウは**唾棄すべき邪悪が本来感知できないほど遠くからゆっくりと町に近づいてくる**予感を感じた。**その方角は北東。その方向では見世物巡業が興行している**ようだ。
ミカゲは傾奇者と接触をしたところ、友達のそのまた友達が**急に女遊びに嵌って羽振りが良くなって町から消えた**という話を聞けた。**その人物は怪しい取引をしていたらしい**。内容は分からないが**後ろ暗いことは分かる。通いの店があったらしく、そこの部屋を長期で借りていた**らしい。
情報を集めたウルウとミカゲは忍者ムーブで情報を共有した。
見世物巡業と消えた者の通いの店が気になった二人だが、仲間と情報を共有するために一度城に戻ることにした。**通いの店（場末の連れ込み宿と判明）**と見世物巡業についてはマサヨシがクオンに聞くと言ってくれた。

一日目・昼・大通り

クロウが鼻を利かせたが怪しい臭いはない。町の話題は神隠しや化物、見世物巡業が来るので楽しみという話題ばかり。
そんな中で、**見世物巡業は何故かオダワラ藩の中でしか開かれているのを聞かない**という話が聞こえる。
「俺はエドの方から来たんだけどよ、この町に来るまで巡業なんか聞いたことねぇよ」「オイラは西からだけど同じだ」「しかも、妖術に見間違いするくらい芸達者な奴らだろ？普通ならもっと噂になるだろ」
オダワラ城下に来るまでは見世物巡業の話など一切聞かなかったという。

一日目・夜・オダワラ城

いったん、全員で戻って情報を共有する。
朔君は同席していない。
見世物巡業は数日ほどで城下に到着すると追加情報を得るクロウ。
クオンのところに行っていたマサヨシが戻ってきて、**場末の連れ込み宿を改める権利（クオンの手紙）**と**見世物巡業が三日目の朝にオダワラ城下に到着する**という情報を得た。さらに見世物巡業の興業予定地を知ることもできた。
各々に散って調査をすることに。

一日目・夜・町外れ　（見世物巡業予定地）

まだ何もないが、**一応整備されている場所。背後には100jmほど離れて森が広がっている。用地はそれなりに広い**。
北東と言えば、魔を呼び込む鬼門と気が付く二人。
ヘラが魔力を探すがまだそれらしいものはない。ウルウは**森と行き来する人間ではない足跡**を見つける。
浅い足跡や引きずった跡、等間隔に開いた穴を見つけるウルウ。写真記憶でそれらの跡を覚え込んだ。
足跡を見たヘラは、**牢内に残っていた足跡に似ている**と感じた。
ウルウは**多足で節足がある太長い生き物がいたらこのような足跡がつく**と感じた。

一日目・夜・裏（春）通り　（クオン）

クオンと面通しをするギーゼルベルト。
ウルウとミカゲが来てから間もないので新しい情報はまだないようだ。

一日目・夜・裏（春）通り　（連れ込み宿）

連れ込み宿の店主にクオンからの手紙を見せて、長期間借りられていたという部屋の捜索をさせてもらうクロウとミカゲ。
店主の話によると、**借りていた者が神隠しにあってから、すぐに親族の使いを自称する者が来た**という。
店主は怪しいから門前払いにしたと語る。不審なものを感じるクロウとミカゲ。
案内された先は窓のないいわゆる隠し部屋だった。部屋の中には背嚢と衣服くらいしかない。
クロウが臭いを探ると、**連れ込み宿の割には情欲の跡がない。幾人かの男の臭いと微かな腐臭**を感じた。
背嚢の中には**呪符**と**『南西の村外れの適当な場所に』**というメモが入っていた。**南西は裏鬼門**にあたる。
呪符自体には魔力を感じないが**門のようなものを作る呪符**のように見える。
しかし、この連れ込み宿は城から見ると南南東にあたり、裏通り基準では西にあたる。連れ込み宿の北東には特に何もない。
呪符に不審を感じるものの**呪符を城に持ち帰ると厄介な展開になる**と神託を得たミカゲ。
呪符が盗まれる危険も感じるクロウだが、この裏通りはちゃんと整備された正しい歓楽街であり、場末の連れ込み宿とは言っても、他の街なら十分に中流として通用する。すなわち盗難の危険は低いと判断。
ならば、むしろ**呪符はここに置いておいた方が安全と判断**するクロウとミカゲ。
ミカゲは**呪符の浄化（ディスペルカース）を試みるが、呪符は少し光っただけ**に終わる。
ミカゲは**呪符を部屋の中の背嚢ではない別の場所に隠し**て、連れ込み宿の店主に挨拶をしてから撤退する。

一日目・夜中・オダワラ城

全員睡眠をとった。**夜中に短い戦闘の気配。ほとんど無音だった**。詠唱はあり得ない。**一行の誰も騒がず朝までぐっすり眠った**。

二日目・朝・オダワラ城

全員で情報共有しつつの朝食を摂る。**ヘラはイコンを出して聖地に向かって祈り**。
夜中の戦闘の気配は朔君を狙った最下級霊の襲撃だった。マサヨシが撃退した。
得物が宝貝だったので斬れたが普通の武器だったら無理だったというマサヨシの言葉。
オダワラ城の結界には穴があったようだ。
ミカゲが話題にした呪符を南西にとの言葉に朔君が反応。
オダワラ城の南西には無縁仏を祀る御堂があり、外法使いが怨霊を使うならそれを利用するとのこと。
南西から北東へ町を横断するように幽界が作れるのなら町ごと黄泉平坂に引き込まれるとjもヘラが語る。
見世物の一座が怪しいという一行の一致した見解にも朔君が反応。
黒幕は二十年ほど前にこっぴどく振った傾奇者気取りになまっちょろで現在の老中の一人だと思い当たる。
目的は藩の家督問題ではなく朔君への復讐だった。
黒幕については朔君がたっぷり後悔させてやるから実行犯の外法使いを頼むと改めて依頼される一行。
それぞれ、鬼門と裏鬼門の方向へと向かう。

二日目・朝・町外れ（無縁仏の御堂）

ギーゼルベルト・クロウ・ヘラは無縁仏の御堂へと来た。まったく人の臭いがしない。外からでは魔術の痕跡も見当たらない。
ぱっと見ただけでは御堂に問題はない。あまり広くない御堂にはアヅマの流儀での鎮魂の碑があるのみ。碑文には神道の鎮魂の祝詞が彫られている。
しかし、ヘラには碑に**身元の分からない無縁仏の古い魂の怨嗟の声**が聞こえる。ヘラは修道服に着替えるとハープにより葬送の歌を歌い、**無縁仏たちは感謝して天へと昇っていった**。

二日目・朝・町外れ（北東の森）

目がどうしても笑えないミカゲをデコピンで諌めるウルウ。
花魁コンビはさほど広くないのに深くて暗い森に身を隠しながら潜入する。
森の中に潜む何者かは二～三日の間は森から出ていない。
そのまま奥へ奥へと進む二人。
足跡のみでは何者かの痕跡が途絶えそうになるが、剥がれた幹や折れた枝などの痕跡も見ることで、追跡を続けていく。そして、**これ以上痕跡をたどると間違いなく戦闘になるというところで追跡を中断**する。**折り重なってはいるが気配は一つ**。そこでは森の声がほとんどない。
戦闘できないのが不満げなウルウをデコピンで諌めるミカゲ。痕跡を見つけた場所を正確に記憶するウルウ。二人の花魁はオダワラ城へと撤退していった。

二日目・昼・オダワラ城

オダワラ城に戻り、揃って昼食を食べながら情報共有する一行。
南西（裏鬼門）の無縁仏は浄化したと報告するヘラ。
北東（鬼門）の怪異を確認してきたと報告するミカゲ。
その報告に、**おそらく牢を襲ったキメラに間違いないとヘラは確信**する。
短い議論の末、森の中の怪異を放っておくことはできないと、全員で北東の森に向かうこととなった。

二日目・昼・町外れ（森）

森の中に潜む怪異を求めて、一行は森に入る。
クロウは**何かから漏れてくる死臭と腐臭**を嗅ぎ取る。
臭いと痕跡から間違いなく怪異と接触できる確信。
ミカゲは八百万の神に、いま戦うは吉か凶かと尋ねた。**不利益にはならないという神託**が下る。
怪異に接近するにつれ、ヘラは激しい嫌悪感を感じる。取り込んだ魂の欠片が反応しているのだ。
牢を襲った怪異に間違いない。
幻術で守られていた**太い肉繭から節足が多数伸びている怪異**を発見する一行。
ウルウは見たこともない怪異だったが、ギーゼルベルト、ヘラ、ミカゲは**先日戦闘したフレッシュゴーレムに似ている**と感じる。
どうやらアンデッドではなく、**腐肉を材料とした魂を燃料にした独立型の魔法生命体だと分かる。見た目より密度があることから形態変化もあると想定**される。

二日目・昼・町外れ（森）・中ボス戦

怪異のスペックは以下の通り。一旦攻撃されると相当の苦戦が予想された。

フレッシュラーヴァ モンスターレベル＝8　敏速＝10　移動速度＝10　知能＝命令を聞く　反応＝命令による　命中＝20　威力＝20 (溶解触手　ターン終了時完全防御無視の10点ダメージ、ダメージ分回復)　回避＝12 防御＝20　魔法防御＝8　生命力／抵抗値＝50/-　精神力／魔法抵抗＝-/20　特殊能力＝精神的な攻撃は無効　　毒,病気に冒されない　3回攻撃　言語＝なし

しかし、**ウルウの弓術とクロウの居合であっという間に撃破されてしまった**。
攻撃が入るとフレッシュラーヴァから**人間を模倣した手足が無数に生えてのたうち回り、手の先からは棘が飛び出て先端から液体が飛び散っている**。ヘラはこれを**人体錬成の亜流**と看破した。
戦闘後にヘラとミカゲによって葬送されていく魂たち。その中にはヘラに吸収された小之進の魂も混じっていた。
小之進の記憶がヘラに受け渡される。女とやり取りをした後で、女が見世物小屋で人を集めて何かの儀式をするつもり、というのを聞いてしまったために消されたのが分かった。

あまりの手際に感心したマサヨシが空から降りてきて、**見世物巡業が次の日の朝より若干早くに到着する**とのこと。
見世物の花形には、**火を噴く団長、鉄壁の男、幻の女**がいるようだ。
人を集めて儀式をするようだから、**この場所に人が集まらないようにする**として、**朝一に決戦**をすることとなった。

二日目・夜中・町外れ（森）

一行は城に戻り、各々回復して決戦に備えることとなった。
その中で一人未明に幽体離脱をして森に赴くヘラ。
一座が興業をする予定地では急ピッチで設営作業が始まっている。
戦闘の跡に降りるヘラの霊魂は女と遭遇する。以下会話。

女？『せっかくの玩具、こわされちゃったみたいね。もったいない。**玩具、あと3つあるけど**……私も遊びたいわ！』とても楽しそうに呟く女は明らかにヘラに聞かせている。
ヘラ『……遊び…貴女は何が目的で、こんなことを続けるの？…ジブリル』
女？『**面白いからよ？**』心底楽しげな女。
ヘラ『…そのせいで、命を落とすことに、なっても…貴女はそれを、楽しむのでしょうね…』
女？『えぇ、もちろんよ！！考えただけで興奮しちゃうもの！』おぞましいほどの恍惚の声
ヘラ『……一つだけ、聞いておく……貴女は命を奪った相手のことを、考えたことはある？』
女？『おかしなこと聞くのね？当たり前じゃない！**じゃないと、絶望や憎悪の魂にならない**じゃないの！』心底楽しげ
ヘラ『……**ネクロマンスに、魂の感情は関係ないはず**……それは貴女の、趣味？』
女？『うふふ、知りたがりね？でも、教えてあげない♡』

ネームドNPCリスト	
朔君	**今回の依頼人**。オダワラ藩主の正妻。城主は参勤交代でトート（エド）にいるため、彼女が城主同然。最初は女中頭に扮して一行を出迎えた。立ち振る舞いはかなり洗練されていて、歳を重ねた美貌だけではない気品や艶やカリスマ性も持ち合わせている。普段は割と砕けた口調。TPOに応じて使い分けているのだろう。これまでに起きた事件についてもある程度知っている様子。今回の一件が二十年前に振った男が意趣返しだと気が付いた。相応の報いをくれてやろうと思っているようだ。昼は公務があるため、**話をするなら夜**。（緊急時は別か？）**昼の間の警護は家臣たちがしてくれるようだ**。（ボスを撃退できるとは言っていない）外国の文化も積極的に取り入れているようだ。
ジブリル	**酷死の魔女ジブリル**。今回の騒動の中心にいると目されている人物。死霊術師の中でも死体も魂もただの資源としてしか見ず**異形異端の冒涜者**。手配書の見た目は**妖艶な金髪の美女**だったが、アヅマで活動する間は**髪は黒く染めている**ようだ。死霊術だけでなく機械も使いこなす、かなりの危険人物。ハコネの山中で死霊術の実験を強行し、近隣の人口百人程度の村の住民のほぼすべてをフレッシュゴーレム（の一種）に仕立て上げた。今回は手下か同盟者がいる可能性も浮上している。**PCは全員彼女の手配書を持っていて良いとGMが許可済**。
マサヨシ	ホオヅキに乗り込んでいる仙道。刀状の宝貝を使いこなす。しかし、**仙道としての制約で人間を殺すことができない**。（殺したら彼もまた死んでしまう）今回の依頼人朔君に恩義があるようだ。逆にクオンからは尊重される立場にいるよう。朔君以外に坊と呼ばれることには抵抗有。
小之進	オダワラ藩の家臣としては中堅どころ。藩主の弟を擁立してオダワラ藩の実権を握ろうとして、ジブリルを雇った。企みは露見し牢に繋がれていたが、看守の目を離した隙に**牢に入ったままで悲鳴をあげながら溶かされて死んだ**という。彼の背後にいたのは最終的には老中のようだった。彼の周囲の者や家族は全員行方知れず。
クオン	藩主と朔君に委任されて裏通りの顔役をしている若い男。マサヨシに対しても敬意を表している。

影武者	一日目の朝に朔君の身代わりを演じた人。影内儀と呼ぶべきか？若干頼りないが、周りが異常にレベル高いだけで彼女自身はそこそこ有能なのだろう。
老中	幕府の要職の一つ。今、この地位にある者が**二十年ほど前に朔君にこっぴどく振られた**らしい。政治的な事情もあり本名は明かされていない。**傾奇者気取りのなまっちょろ**だったとか。嫡子が元服した時に見世物巡業の一座を呼ぶように勧めたらしい。おそらく**今回の依頼人の背後にいる人物。目的はオダワラ藩というよりも朔君自身**だったようだ。

過去の経緯

ヤマニヒソムアクイ（ハコネ山中での死霊術実験）

ハコネ山中に怪異が出現したためマサヨシを仲介として討伐の依頼を受けたヘラ、ミカゲ、ミズキの三人。ハコネ山中の寺に行きそこの住職ソウネンの話を聞く。
ソウネンが言うには山中に見慣れぬ獣道ができており、見れば異国の装備を身に着けた【何か】が山奥に消えてゆくのを見たが、生命の危険を感じて逃げてきたとのこと。
仲介人のマサヨシといったん別行動をとって山中に踏み入る三人は、**鎧に呪縛されたアンデッドナイトとワイト化されたうえでいくつもの動物の魂を縛り付けられた熊**が戦っているのを目にする。
アンデッドナイトを倒した三人だったが、**アンデッドナイトはワイト化された熊を取り込みアンデッドバーサーカーへと変化**した。
アンデッドバーサーカーもヘラの祈祷とミズキの狐火とミカゲの剣術によって倒すことができ、最終的にはヘラによって浄化された。
そんな中ミカゲは剣戟音を聞く。マサヨシが誰かと戦っていたようだ。音の方に向かうミズキとミカゲ。その一方でヘラは**死霊術師の中でも外道と呼ばれた女ジブリルの姿を目撃する**。

アクイニキエタムラ（フレッシュゴーレム製造実験）

前回の事件からひと月ほどたったある日。
ハコネから徒歩で半日ほどの人口百人ほどの街道から外れた村の住民が一夜にしてすべて消えたことが分かった。マサヨシの仲介で村に向かったギーゼルベルト（ルベル同伴）とヘラとミカゲ。
村を調査する一行だったが、魔力や重量物を運んだ形跡を追跡して村の中にある廃寺が怪しいことがわかった。寺のお堂の中に怪しげな仕掛けを見つけたミカゲはその仕掛けを作動させた。
廃寺の地下には大きな地下洞穴があり、洞穴に設けられたシャッターの先には**いくつもの機械とそれに繋がれた肉繭**を見つける。
肉繭には複数の苦悶する顔がついていて『生きている』もののもう解放することができないものだった。**肉繭からはケーブルが伸びていてその先に巨大な肉塊が繋がっていた**。肉繭を全て吸収しきることで肉塊が一種のフレッシュゴーレムとして完成する仕掛けの傍には**怨嗟の念を吐く肉繭にご満悦なジブリルの姿があった**。
ギーゼルベルトとヘラとミカゲはそれぞれに怒りを感じジブリルを捕縛しよう殺そうと迫るが、ジブリルが起動させた**多足多腕のフレッシュゴーレム・ネクロムに阻まれる**。ルベルを加えた四人で何とかネクロムを倒した一行。
ギーゼルベルトはなおも挑発するジブリルに挑みかかり、ヘラとミカゲはネクロムや囚われた肉繭たちを浄化する。ジブリルは肉繭からさらにフレッシュゴーレムを作ろうとするが浄化された死体たちはそれ以上死霊術に使うことができなかった。
ジブリルはさらに一行を挑発するが、実は**ジブリルだと思っていたのはただの身代わりの土人形だった**ことが分かる。
ジブリルは地下の実験場を自爆させ、一行は何とか脱出した。
それ以上はジブリルに執着しないギーゼルベルト。どんな罪人であっても感情の赴くままに殺しては殺人鬼と変わらないという立場のヘラと惨たらしい行いを繰り返すジブリルを必ず殺すと憤怒するミカゲの間には埋め難い溝が穿たれるのだった。